

2024年度

学校関係者評価報告書



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門
学校

名古屋ビジネス・アカデミー

(2024年4月 名古屋スクール・オブ・ビジネスより校名変更)

2025年8月28日作成

はじめに

学校関係者評価委員のみなさまには、日ごろより本校ならびに本校学生の学校活動にご協力を賜わり、また、いつも暖かく見守っていただき、厚く御礼申し上げます。

2024年度の本校運営につきまして自己点検・自己評価し、次頁以降を作成いたしました。

ご確認賜わり、各項目につきましてご意見・ご感想を頂戴したいと存じます。

みなさま方のご意見を反映し、学校関係者評価委員会終了後に「学校関係者評価報告書」としてまとめ、次年度以降の学校運営に、おおいに反映させていただき所存でございます。

ご多用のなか誠に恐縮ですが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2025年8月28日

学校法人21世紀アカデミア

専門学校名古屋ビジネス・アカデミー

学校長 尾石 可恵

(1) 教育理念・目標

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(1)- 1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	本校の教育理念・方針は、学則に基づき、学園理事長、学校長によって定められている。学生全員に配布し、教職員が指針とする『学生便覧』に「教育理念・方針」として明記している。	
(1)- 2 学校における職業教育の特色は何か	4	企業とのパートナーシップのもと、業界・企業から求められる人材について分析し、特に社会人基礎力を高める教育を重視してきた。2024年度についても各学科で企業との連携をより深め、学園系列4校横断の教育イベントについては、全国コンテストを3学科はリアル開催、1学科はオンラインで開催した。	昨今のオンライン化の流れのなかで、リアルでの開催は学生にとって、とても有意義なものになると思います（特にコンテストのプレゼンや発表）。リアル開催は何かとご苦労もあるかと思いますが、続けて頂ければと思います。 コミュニケーション能力や問題解決能力、チームワーク、責任感など社会人基礎力は、社会に出る上で不可欠な能力です。引き続き、企業との連携や学園系列で様々な取り組みをし、能力を高める教育を続けて頂きたいです。
(1)- 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	AIやロボティクスが加速度的に進む今後の社会において、ビジネスで活躍できる力を、学校、エリアを超えクロスオーバーするなかで身につける方針である学園のセブン・ステップ・カリキュラムをおおいに活かし、本校学生たちが成長していけるよう進める。	IT業界においても、技術力と同等もしくはそれ以上にコミュニケーション力が大事です。そのため様々な学びの体系により、社会で通用する人材の育成をお願いします。 学校、エリアを超えクロスオーバーしながら様々なことを学べる環境はとても素晴らしいと思います。特定の学生に留まらず、様々な学生が向上心を持って学べる環境を継続していただきたい。
(1)- 4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4	学生に対しては、入学式前後1週間かけて新入生オリエンテーションにて学校の理念・目的・育成人物像などを周知させている。保護者会は、5月に対面で実施した（出席率64%）。	比較が難しいですが、出席率が64%というのは、感覚的にはもう少し増えると更によくなるような気がします。時間をかけて取り組まれておられます。 学生の意志決定に保護者の与える影響が大きくなっていると感じています。保護者会などを通じて、学校の教育理念などを共有頂くことにより、家庭でのバックアップも得られ、継続率も高くなると思います。

(1)- 5

<p>各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</p>	<p>4</p>	<p>新年度学科計画を立てる際、学科担当が業界リサーチを行い、カリキュラム編成に活かしている。また、業界企業委員から成る教育課程編成委員会で意見を伺い、企業連携科目を中心に、各業界企業のニーズを反映、実施した。</p>	<p>即戦力となる人材の教育にご尽力されており、卒業後はそれぞれの分野、会社におかれまして大いにご活躍されていることと存じます。 社会の構造や業務の複雑化、常に進歩する新技術への対応など、求められる人物像も変化し、授業内容への反映は非常に難しいと思います。そのなかで、外部組織と連携し、各業界がどのような人材や技術を求めているかを連携のなかでブラッシュアップして頂ければと思います。 時代の変化に応じた学校教育が求められる中で、柔軟な取り組みとより多くの関係者の意見が集約されるようなシステムがなされている。引き続き、業界のニーズに向け取り組んでいきたい。</p>
--	----------	---	--

今後に向けての学校の考え

職業実践専門課程認定校として、各業界の委員(教育課程編成委員会/学校関係者評価委員会)の方々や、卒業生が就職先としてお世話になっている企業さまからのご意見を反映したカリキュラムを実施してきました。
さらに、昨年度より法人名・学校名を変更し、新たな方針のもと学校運営を進め、専門知識・専門技能にとどまらず、姉妹校とクロスオーバーした取り組みで異業種コラボレーション力やコミュニケーション力を養い、人間力を身につけられるカリキュラムを推進しております。
今後、この方針をさらに推し進め、業界で活躍できる人材育成を目指してまいります。

(2) 学校運営

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(2)- 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針・事業計画については、学園の方針・総意のもと、学校長と副校長、事務長、名古屋エリア事務局長、全国ビジネス・アカデミー教育本部4校で協議しながら進めている。	
(2)- 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	上記運営方針のもと、毎年事業計画書を予算計画と連動して作成し、計画に沿って実施している。	
(2)- 3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	4	意思決定については、理事会・拡大常任会議、協議機関として、全国ビジネス・アカデミー4校が所属するビジネス教育本部で、本部長のもと、ビジネス・アカデミー4校学校長・副校長がオンラインで協議するビジネス教育本部会議、名古屋エリアにある姉妹校4校の学校長・副校長・事務局長・事務長を中心とした名古屋エリア責任者会議があり、毎週実施している。 学内では、教職員が参加する定例学務ミーティングを毎週実施、学校運営に関する情報や学生状況(継続/就職活動進捗等)を共有し、課題と取り組みについて組織的に協議、共有するようにしている。	組織的に、多角面から協議されていると思います。それぞれの地域性や地元業界の特性があると思います。そのため、各校との情報共有をすることは、学生にとってもメリットが大きいと考えます。
(2)- 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	教職員の人事、給与に関する規定については、各人が定量・定性にわたる目標設定を学校長と協議のうえ設定、期末を前に達成進捗や振り返りを踏まえ、職務要件や給与テーブルに照らし合わせて次年度の昇給に反映される制度を整備している。	
(2)- 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各教職員の報連相を重視し、意思決定は学校長・副校長中心で行う。また、事務長が事業計画に基づく予算編成の段階から精査・共有し、学園事務局と連携しながら計画・実施している。	
(2)- 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員が地域社会へのコンプライアンスの重要性を認識し、学生指導している。また、社会人教育の一環として、就職指導の授業などで社会人としてのコンプライアンス遵守について指導している。	

(2)- 7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	情報公開に関しては、学校のホームページで基本方針や学科の特徴・バリュー、カリキュラム、就職活動支援体制等を公開するとともに、職業実践専門課程認定校ならびに国の修学支援認定機関として、規定どおりの学校情報を公開している。	適切にされておられます。
(2)- 8	情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	3	学生一人ひとりの情報に関して、取得単位数・資格、出席状況は成績管理システムにて管理。学生への連絡周知、オンライン配信授業や一部の教育イベント(全国大会など)、学園横断の会議等については、Microsoft Teamsを活用。求人票や求人検索、就職活動内容をデータベース化した「スタログ for Recruit」、予算の執行時には学園稟議システム、人事評価には「カオナビ」システムを運用している。ただし、卒業生についての情報管理は、卒業時にメールアドレスを登録する学園全体のしくみを整備中であり、課題としている。	転職が当たり前となっている現状では、卒業生の状況把握は大変難しいと思います。しかし卒業生の定着状況などは就職支援においても有益な情報になり、また後輩にとっても知りたい情報だと思いますので、ぜひ構築に向けて進めて頂きたいと思います。昨年同様、卒業生の情報管理といった課題に関しても引き続き対応を進めてほしい。卒業生の情報管理は以前からの課題だと思います。仕組みの整備が早期に進むことを期待しています。

今後に向けての学校の考え

引き続き、経営理念・方針を教職員全員に共有し、コンプライアンス等の遵守を徹底し、風通しのいい職場環境づくりに努めてまいります。また、定められた情報公開を適切に行ってまいります。情報システムによる業務の効率化については、学園全体で毎年進めております。遅れておりました卒業生の状況把握につきましては「ネクスト・ステージ・アカデミー」を進めてまいります。

(3) 教育活動

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(3)- 1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	カリキュラム、シラバス、資格検定取得計画と対策、学科運営に関する目標や計画については、年度ごとに学科担当が策定。「カリキュラム編成シート」を作成し、業界企業委員で構成される年2回の教育課程編成委員会で意見をいただきながら実施している。企業連携科目を含め、産学連携による教育イベントについては各学科で実施するとともに、「業界EXPO」「トリミングコンテスト全国大会」「全国ビジネスプランコンテスト」「A-TECHコンテスト全国大会」「オンライン留学プログラム」等全国ビジネス・アカデミー4校と協議、共催。学生たちが成長を実感し、成功体験を積めるしかけとして実施した。	他拠点と共催するイベントが実施できるのは強みだと感じます。質向上や改善の仕組みが上手く生きてよりブラッシュアップしていけると良いと思います。
(3)- 2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	本校では、全教員(専任/非常勤講師)が担当する全授業について、「授業計画書」を授業期の初めに提出。毎回の授業実施内容は「授業報告書」に記入し、共有している。また、授業期ごとに担当教員の総括・要望をとりまとめ、授業の質の向上や改善に努めています。	A-TECHなど学生にとってアウトプットできる場があるのは素晴らしいと感じました。昨今の学生は(他の大学、専門学校を含め)アウトプットすることに慣れていない方が多いと感じています。これらは経験によるところが大きいと思いますのでそういう意味でも重要です。
(3)- 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4		
(3)- 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか	4	キャリア教育については、1年次からの「就職指導」に加えて、国家資格キャリアコンサルタントを持つ職員が実施する「キャリア実践学」を配置。自己分析のための棚卸しから各人の強みを文章化するとともに、グループワーク・ディスカッションを通じてコミュニケーション能力の向上を図っている。	キャリアコンサルタント資格保有者による「キャリア実践学」を指導した上で、各人の強みを文章化しつつ、グループディスカッションによるコミュニケーション能力向上のプロセスは大変素晴らしいシステムと感じます。就活が早期化するなかで、2年制専門学生は入学して半年後には就活準備が始まるというタイトなスケジュールを強いられているのが実情かと思います。そこで専門講師が学生のキャリアを考えるサポートをされるのは学生にとっては大きな安心につながっていると思います。インターンシップや職業体験、オンライン学習などを活用し、学生の可能性を最大限に引き出せる場を今後も提供していただきたい。
(3)- 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	本校では「実践的な職業教育」を、連携している業界企業へのインターンシップ及び業界現役あるいは企業からの派遣講師による学内での実践的授業ととらえている。年2回実施の教育課程編成委員会では、関連分野の企業等より意見をいただき、業界ニーズをとらえたカリキュラムにすべく反映している。	
(3)- 6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4		2年制専門学生が1年生の夏にインターンシップに参加する取り組みは素晴らしいです。就活スケジュールが早まっている昨今では、学生にスイッチが入る大きなきっかけになっていると感じるからです。就職を取り巻く環境は1年でも大きく変わっています。企業との密に連携し、最新のニーズが学生への指導に生きることを期待します。

(3)- 7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	授業評価については、学生の「生の声」を聞くために、9月に「授業アンケート」を実施。アンケート結果について専任教員が共有し、現状の把握と授業内容・学校運営の改善に努めている。また、非常勤教員へのフィードバックを行い、改善や次年度継続可否の参考としている。	現在では大人と若者の価値観は大きく変わっていると感じています。そのギャップを埋めるためにまずは意見や話を聞くことは、気づきになると思います。まずは気持ちをしっかりと受け止めてあげる取組みは素晴らしいと思います。
(3)- 8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	「業界が求める人材」については、11月に実施した「業界EXPO」ご参画企業(2024年度実績80社)や学内会社説明会を開催する企業より直に伺うとともに、愛玩動物看護学科・ITビジネス学科(単位認定)、ペットビジネス学科を中心にインターンシップをお願いしている企業から、参加学生についての率直な評価を学科担当や就職指導担当が伺い、学内で共有、カリキュラムや教育イベント、ゼミなどに反映している。	IT業界においては、企業によって業務内容が様々です。それぞれ求める技術(開発言語、開発手法など)は異なりますので、授業内容への反映は非常に難しいと思いますが、多くの企業様の情報を収集し反映させていくことはとても良い取組みだと思います。
(3)- 9	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則および「学生心得・細則」(学生全員に配布する『学生便覧』に明記)に則り、厳正に行っている。『学生便覧』は、新年度開始時のオリエンテーションで学生たちに周知するほか、保護者会でも配布し説明、保護者への理解も促している。	
(3)- 10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科のカリキュラム編成シートに取得スケジュールが明記されており、取得すべき資格・検定については、該当対策授業のほか、授業時間外で対策ゼミを行ったり、質問に答えるなど、合格率アップのために指導している。また、年度ごとに取得実績を記録し、指導体制の強化、内容改善に努めている。	資格取得は専門分野で学んできたエビデンスになり、学生にとっても自信につながると思います。これまで通り、対策ゼミなどの施策は継続し合格率アップを目指して頂きたいです。
(3)- 11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	現教員は、専任・非常勤含め、学科の教育目標や実施方針を遂行でき、業界レベルの指導ができると判断している。	

(3)- 12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3	<p>期中に専任教員の退職があり、それに伴ってリーダー・副校長が担任を兼任せざるを得ない事態があった。当該学科の学生たちが不利益を被らないよう、また、学科の非常勤講師との連携が疎かにならないようサポートに注力した。質の高い授業を提供するためには、学科担当と非常勤講師との連携は必須である。それを、学科担当が職務としてとらえ、双方でコミュニケーションを取りながら進める体制としている。</p>	<p>不測の事態への対応は非常に難しいものだと思います。そのなかでも学生への影響を最小限に留める体制を構築できていると思います。職員の離職は一定避けられない為、それを見越した体制作り、情報共有が必要だと感じます。</p>
(3)- 13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	3	<p>2024年度の教員研修については、“年1回以上自主的に参加”を期初に周知したが、個人差が出てしまい、組織的・計画的に実施できたとは言えない結果となった。学科運営、学生1人ひとりの授業出席状況管理や面談をはじめとする担任活動、授業・実習の組み立て・準備・実施、非常勤講師マネジメント、就職指導等に、学園横断の教育イベントや施策が新しく加わった1年だった。次年度の改善を目指す。</p>	<p>現場の作業と研修を天秤にかけると参加が難しい場合があるかもしれませんが、まずは文化の生成が大切だと思います。続けていくことにより、文化の醸造が進むと思いますので、継続してトライしてください。時間的余裕の確保や心理的安全性の高い環境でなければ、主体的に学ぶことは難しいと思います。先生方のニーズに基づいた環境を整えることが望ましいと感じます。中学校等で最近言われるように、先生方が過重労働になっていないか心配です。部活動はないと思いますが、外注できるところは検討してもよいのでは。自主的に参加では日々の業務がある中で難しい。職員毎の業務量を管理者が把握した上で、研修自体も業務として組み込めると良いと感じます。</p>
(3)- 14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2		

今後に向けての学校の考え

各学科のカリキュラムは、教育課程編成委員や連携企業のみならず、卒業生や採用企業ご担当者のご意見を反映し、業界で求められる力についてより精査し、学生たちが「実践する」ことをポイントに引き続き取り組んでいきます。AI化が進むなか、ビジネスで活躍できる力の習得や新しい変化への対応について、学園の新しい教育メソッド(三つのユニークネス)を実直に推進してまいります。教職員研修については「年に1～2回以上自主的に参加」を条件に、多様な業務のなか実施できますよう組織として進めます。

(4) 学修成果

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(4)- 1 就職率の向上がはかられているか	4	2024年度で就職率(求職者に対する)100%を11年連続達成した(卒業生に対する求職率94.8%、内定者のうち業界内定率92.7%)。1年次から毎週の「就職指導」授業、1年次11月「業界EXPO」、早期選考・学校推薦枠の獲得、インターンシップの促進、学内会社説明会の実施等学校としての枠組みを活かすとともに、学科担任と就職指導担当が連携して学生1人ひとりをねばり強くサポートしてきた結果だと考える。	学生さんお一人お一人に、手厚くサポートされておられます。就職率以上に、業界内定率の高さは素晴らしいと思います。日頃からの指導や企業との接点を持たせるなど、早い段階から就活に意識を高めていることを伺うことができますので継続して頂ければと思います。就職率100%を11年連続達成は素晴らしい。入学当初から就職に向けた指導が成された結果だと思えます。引き続き、粘り強くサポートして頂きたい。
(4)- 2 資格取得率の向上がはかられているか	3	合格率が全国平均を超えたものは、「サービス接遇検定準1級ロールプレイング」、PC検定など。ITビジネス学科で取得する国家資格「基本情報技術者試験」につきましては、昨年度から大幅に改善し、全国平均レベルを超えた。一方で、「リテールマーケティング(販売士)」、「日商簿記検定」は、ホームルームやゼミで対策を強化し、昨年度より合格率を改善したものの、全国平均は下回る結果となった。3年制となつてはじめて実施された国家資格「愛玩動物看護師」は、合格率92.3%だったが全国平均は超えられない結果となった。次年度は合格率地域NO.1を目指す。	資格取得と実践的な内容の両立は時間的に厳しいかもしれませんが、貴重な情報系の専門学校としてこれまで通り取り組んで頂けることを期待しています。基本情報技術者試験の取得は就活において有利になりますので、そのあたりも学生様のモチベーションに繋げてください。対策をしたことにより、昨年度から資格取得率の向上が図れている点に評価できる。引き続き、1人ひとりの苦手分野に寄り添い対策を強化して合格率アップを目指していただきたい。個人的には日商簿記検定の合格率がせめて全国平均まで上がるとよいのですが。基本情報技術者の合格率大幅改善、素晴らしいです。分野が違っても資格取得対策として共有できるナレッジがあると良いと感じます。

(4)- 3	退学率の低減が図られているか	4	<p>本校の1→2年生進級率は目標を90%としており、当該年度は90.0%を達成した。退学理由については、不登校経験者が増加するなか、学校生活不適応(めざす分野への目標喪失)、メンタル事由、友人関係に加えて、単位が取れないなどがあった。</p> <p>退学率の低減に関しては、定期的な個人面談に加え、遅刻・欠席はきざしが表れる相関関係ととらえ、担任が「欠席管理表」で学生1人ひとりの出席状況を把握。遅刻・欠席する場合は学生から担任に事前連絡することを義務づけている。また、出席点を成績に組み込み、単位認定の一環としている。非常勤講師からも授業での学生の変化や違和感があれば担任にフィードバックしてコミュニケーションを取ることを職務ととらえ、遅刻・欠席が重なった場合は担任から保護者へ連絡するフローを整えている。</p>	<p>企業においても、早期退職は大きな課題となっております。もちろん、経済的理由などやむを得ない理由もありますが、それ以外の退学について学校としてのフォローアップ体制も重要かと思えます。ただ、一定数は「何となく入学を決めた」という学生もいると思いますので、そのあたりについても、入学前に進学する目的を学生自身が考える必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>定期的な個人面談、遅刻・欠席はきざしが表れる相関関係ととらえ、1人ひとりのに寄り添い、対策されたことに評価ができる。引き続き、フォロー体制を強化し退学を減らせる取り組みを望みます。</p>
(4)- 4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	<p>卒業生の活躍および卒業後のキャリア形成への効果の把握については、卒業生の就職先企業さまからの情報や、学科担当との関係性による一部の卒業生の断片的な情報に限定されており、学校が体系的に卒業生の現状についてリサーチできているとは言えない状況である。学園の新しい取り組み「ネクスト・ステージ・アカデミー」で、卒業生のキャリアを生涯サポートするしくみと連携して進めていく。</p>	<p>生涯サポートをして頂けるのは、学生にとっても安心だと思います。周知も含め、それらを活用できる仕組みが重要かもしれません。</p>
(4)- 5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	<p>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	<p>卒業生情報やその活かし方については、長く課題とされている中、新たな仕組みとの連携を期待いたします。</p>

今後に向けての学校の考え

就職については当該年度も就職希望者就職率100%を達成しております。ただ内定をいただくだけでなく、より希望に近い企業で長く働ける就職指導を実施してまいります。

資格取得率はほとんどの資格で前年よりアップしております。全国平均を若干下回っている資格につきましては、教員数を増やす、習熟度別にクラスを分ける等対策を講じ、更なる合格率アップを目指します。

退学率は大幅に低減いたしました。出欠管理の方法を見直し迅速な欠席の把握、担任が保護者へ連絡するタイミングの徹底、授業内容の見直しなどの積み重ねによるところかと考えております。引き続きさらなる低減を目指します。

(5) 学生支援

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

	評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(5)- 1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	進路・就職への支援体制について、本校では取得単位外を含めて就職活動サポートに力を入れている。1年次11月の就職イベント「業界EXPO」を軸に就職内定が決定するまで、入学当初より週1回授業を実施。必要に応じて保護者とも連携し、学生1人ひとりに向けてサポートにあたっている。	就職率100%は素晴らしいと思います。 貴校の学生からお話を聞きするなかで、就職サポートも含め、学生ひとりひとりに寄り添い親身になった対応をされているという印象で他校様とは差別化できていると感じます。また、早い段階での業界EXPOや単位制インターンシップなど学生に就活意識を植え付ける指導が学生によって有意義なものだと思いますので、引き続き実施して頂きたいです。 入学当初から就職に向けて学生1人ひとりへのサポートが整備されていることが素晴らしい。引き続き、サポートできる環境を継続してほしい。
(5)- 2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	学科担任との面談に加え、学生の精神的な悩みについては、学園に「なんでも相談室」があり、スクールカウンセラー（公認心理師/臨床心理士）が予約制で相談業務を行っている。日々の学生を支援する担任活動で共有すべき事例については、毎週の職員ミーティングで協議し、当該学生にとってよりよい対応に向けて意見を出し合い、担任以外も支援に加わるなどしている。	学生さんのメンタル対応についても工夫され、担任の先生以外のご支援は、とても有効と感じました。 なんでも相談室はとても良い施策だと思います。 担任など利害関係がある人には相談しにくい事も、第三者的な立場であれば話せることもあると思います。気軽に相談できる場であることを周知し、相談にくるハードルを如何に下げることができるかがポイントだと思います。 担任との面談や相談窓口など、学生に寄り添った体制が整備されていると思います。引き続き、時代に合わせた気軽に相談できる環境を整えていただきたい。
(5)- 3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	学生の経済的な支援については、入学前のAO特待生制度（特待生には学費減免）、授業料の分納、日本学生支援機構奨学金や修学支援新制度に関する周知・説明・申請・報告、手続きサポートを徹底している。日本学生支援機構奨学金の緊急申請についても臨機応変に対応している。	経済的な理由だけで進学を諦めなければならないのは、残念に思いますので、奨学金などの案内や手続き支援などは非常に学生にとってメリットがある取り組みだと思います。
(5)- 4	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	定期健康診断を毎年実施しデータ化。学生や教職員のメンタル面を支援する「なんでも相談室」とは、集団守秘義務のもと学務室が連携し、学生の状況把握と退学防止に努めている。	

(5)- 5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	学生委員が中心となって企画し全員が参加する学園祭、スポーツ大会に加え、新入生ボウリング大会、姉妹校4校によるクロスオーバー・サミット、クロスオーバー・フライデーを実施、学科・学校を超えた交流を図った。また、名古屋市獣医師会の外郭団体である名古屋市人とペットの共生サポートセンターが主催する「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」に、栄という立地を活かして教室を会場として提供、学生と教員たちがボランティアスタッフとしてサポートした。	学生の本分は学業ではありますが、やはり学校はそれだけではなく、仲間との関係構築も大切なものです。学園祭やスポーツ大会などのイベントはこれまで通り積極的に展開して頂きたいです。 課外活動は、自己肯定感の向上、社会性の育成やチームワーク力やコミュニケーション力を高めれる機会になります。今後も様々な交流が増えるよう積極的に取り組んで頂きたい。 先生方の負担は大丈夫でしょうか。
(5)- 6	学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	学園が適正と認める業者(学生寮・学生マンション・アパート等紹介)を厳選し、案内している。学生が安全で衛生的かつ快適な生活環境を確保できるよう支援するとともに、健全に生活できているかどうか、担当が把握するよう努めている。	1人暮らしの学生は、よりフォローが必要だと思います。生活環境、メンタル状況などケアを続けて頂き、少しの変化も早期発見できる仕組みがあれば、途中退学などのリスク軽減に繋がるのではないのでしょうか。
(5)- 7	保護者と適切に連携しているか	4	科目ごとで欠席が重なったり、進路・就職について、学生の個別面談等で出てきた課題について、担当が保護者へ連絡。学校と家庭が協力して学生のサポートにあたっている。	大人とはいえ、判断材料が乏しい学生の内は、保護者と連携しながら進める必要があるかと思っておりますので、良い取り組みだと思います。 年々保護者の影響力は大きくなっている気がしますので、連携はとても大切だと思います。学校では問題なくても、家庭内やプライベートな悩みが学業に影響を及ぼすこともあると思いますので、情報共有できる関係性を日頃から構築する努力は継続していただきたいです。
(5)- 8	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生の再就職相談については、依頼があれば担任や就職指導担当が個別で対応している。また、学園で立ち上がっている「ネクスト・ステージ・アカデミー」を周知し、本校卒業生にとっても恩恵があるよう進めたいと考える。	早期退職も一定数おられると思いますので、第二新卒の再就職フォローアップの仕組みが卒業生に周知されていれば、学生も安心できると思います。 短期離職してしまう学生も一定いることを鑑みると、卒業生サポートの充実が学校の評判にも繋がる重要な点だと感じます。
(5)- 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2	「社会人のニーズを踏まえた教育環境」として特別に整備していることはないが、再進学を受け入れについては積極的にやっている。	学びなおしを考える社会人が増えているように感じます。大学とのすみわけが必要ですが専門学校ならではのアピールポイントがあるのではないのでしょうか。

(5)- 10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	地域の各高校から、面接指導や模擬授業等の依頼があった場合は、本校就職指導担当や広報職員が出向いて職業ガイダンスや講座を実施しているが、回数としては限られている。当該年度は、通信制高校よりキャリア教育の一環として模擬授業のご依頼を頂戴し、3分野について専任教員が授業を実施した。	可能であれば、低学年の高校生を対象とした、学校開放や出張授業などの取り組みができれば、進路決定において早めの意識付けができるのではないのでしょうか。学生の学びの選択肢が広がるので、可能な限り高校と連携したキャリア教育を実施できることが望ましい。
(5)- 11	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	1	卒業後に関して「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等」は実施していない。	

今後に向けての学校の考え

クラス担任との定期的な個人面談に加え、就職キャリア、学生サポート、スクールカウンセラー、保護者の方々と、学生1人ひとりに対して重層的に接点をつくることで、個別支援を引き続き推進します。
 社会人教育に関しては、教職員の業務量等を勘案し、学校フロアの地域開放や在校生の地域・社会貢献活動に力を入れることで、代替させてまいります。

(6) 教育環境

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(6)- 1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	<p>施設・設備に関しましては、安全・快適な環境でより効果的な授業が実施できるよう毎年度設備計画を作成し、校舎や実習室・設備の改修を行い、安全性・利便性・清潔感の向上に努めている。2024年度については、建物維持関連として①教室照明LED化(第2期)②トリミング実習等壁面改修③トイレ洋式化④屋外非常階段補強、安全対策として⑤消防設備整備⑥防犯カメラ更新・増設、授業環境整備といしまして⑦2号館3階大教室改装・設備更新⑧ペットビジネス学科・愛玩動物看護学科実習備品追加・更新⑨PC実習用PC入れ替えを計画し、執行した。</p> <p>各施設・設備については、平面図や備品台帳、教室稼働表など書類・データで管理している。業界企業とのパートナーシップのもと、分野に即した実践的実習授業を校内で実施できる環境整備にこれからも努め、学生の意欲を引き出し、スキルを向上させ、成長へとつなげていく。</p>	<p>現在は、学生も企業選びにおいて、会社設備(オフィスのキレイさや充実度)が影響すると考えており、学校でも同じことが言えると思います。学校見学時など学生募集に有利になるので、予算もあると思いますが、出来ることから実施頂くのも考え方のひとつだと思います。※本来は仕事内容など会社選びにおいて大切なものはあるのですが。。</p>
(6)- 2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3	<p>インターンシップに関しては、ITビジネス学科、愛玩動物看護学科で実施する単位認定制の連携企業とのインターンシップのほか、他学科についても1年次夏以降、就職活動につながるインターンシップへの積極的な参加を指導、促進をしている。</p> <p>海外研修について、ロサンゼルスへの渡航を企画し、説明会まで行ったが、円安の影響や燃料費の高騰で安価な価格設定ができず参加希望者が少なく、催行できなかった。</p>	<p>就活スケジュールがタイトになりがちな2年制専門学生において、1年生の夏～秋に単位制のインターンシップの場を学校が作られるのは学生にとって、とても有意義だと思います。</p> <p>インターンシップに参加することでその企業への理解が深まり、自身に向いている職種やキャリアビジョンを明確にできますし、就職活動に向けた企業研究や自己分析に大いに役に立つので引き続き促進いただきたい。</p> <p>ISについての指導内容詳細が不明だが、連携企業IS以外にも幅広い企業を知る為にカリキュラムに組み込む形で実施する学校もあるので、促進の方法の工夫はできるかと感じる。</p>

(6)- 3

防災に対する体制は整備されているか	3	非常時における備品の確保や災害時の緊急対応への整備が充分ではないと認識している。 避難訓練は、校舎ごとに2回に分けて実施した。 非常時の避難経路等は、避難訓練の実施とともに、常勤教職員のみならず、非常勤講師、クラス単位で周知している。	弊社でもまさに現在、防災対策を検討しているところですが、あらゆるケースを想定し対策を取ろうとして進まなかった経験があります。予算計画もあると思いますのでスモールステップでも進めることが大切だと思います。特にBCP対策(学校運営の継続性)の検証は早期に検討着手するべきかもしれません。 防災備蓄や災害時の緊急対応の整備は必要である。学校内の災害対応マニュアル等があれば、保護者含め周知できる環境があるとよいと思います。
-------------------	---	---	---

今後に向けての学校の考え

定期の避難訓練を実施するとともに、災害時の物資備蓄に関しましては具体的な保管場所等、学園名古屋エリア4校6校舎で検討いたします。本校が主催する海外研修につきましては2024年度も円安影響での費用面が理由で催行できませんでした。学園で選抜されたメンバーが参加した「ロサンゼルス・サミット」には本校から3名が参加しました。
また、グローバル施策といたしまして、学園独自の英語習得アプリ、全国ビジネス・アカデミー4校主催ロサンゼルス拠点からのオンライン留学プログラムを実施しております。学生がグローバルな視点を養えるカリキュラムを次年度も進化させてまいります。

(7) 学生の受け入れ募集

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(7)- 1 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	本校は、一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会の会員として、募集活動に関わる諸規則を尊重し、適切な募集活動に努めている。学生募集活動については、高校や設置会場でのガイダンスに広報職員が出向き、年間数百人の高校生ならびに高校の先生方に本校や業界について情報提供している。	少子化、IT技術者不足の社会において、東海地方では貴重な情報系の専門学校であると思います。特に地元志向の強いこの地方では、有難い存在です。質と量のバランスは難しいと思いますが、積極的な募集活動を続けて頂きたいです。
(7)- 2 学生募集活動は、適正に行われているか	4	本校の入学資格は、高等学校卒業資格を前提としたうえで、過去の学業成績よりも学ぶ意欲や目的意識を選考基準として重視し、これから新しい分野に挑戦する初心者に対して入学の門戸を大きく開いている。本校の教職員は、募集活動を「入学検討者に対する進路サポート」と心得ており、①印刷物・webサイト・SNS・高校ガイダンス等を通じた、有用かつ新鮮な情報の提供②おもにオープンキャンパスでの模擬授業を通じた技術・知識の提供、入学相談③入学検討者の疑問や不安を解消するための電話やLINE等を通じたカウンセリングを行っている。遠方等で来校しづらい方には、無料送迎バスの運行やオンラインでの入学相談などにも対応している。	各種施策により、進学後のミスマッチを防止するために最善を尽くされているという印象です。高校生の志向に合わせ、学校の特色の情報発信を積極的に取り組まれていると思います。学ぶ意欲や目的意識を選考基準として重視している点は素晴らしい、教育機関の役割として適正だと感じます。
(7)- 3 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	入学者の約9割が利用するAO入学制度においては、募集活動と教育のシームレス化を実現すべく、「AO2.5教育プログラム」というコンセプトのもと、AOプレスクール(入学前授業)として計9回を実施。専門分野の学習へスムーズな移行と入学後のモチベーションアップ、将来のクラスメイトとの交流を目的としている。	AO2.5教育プログラムの取り組みは、学生の「安心」と「自信」に繋がる教育サポートだと感じます。このようなサポート体制が整っている学校は少ないと思いますので引き続き、強みとして活動していただきたいです。
(7)- 4 学納金は妥当なものとなっているか	4	学納金は名古屋地区の同業他校と比較して妥当であり、提供するカリキュラムや教育環境・設備の質、社会人基礎力の向上のための授業の配置や、全国17校連携する学園全体やビジネス・アカデミー教育本部4校、名古屋姉妹校で共催する教育イベントの充実など、学納金に見合った価値を提供していると考えている。	

今後に向けての学校の考え

学生募集につきましては、18歳人口が減少し、大学進学の上やすさ等、入学検討者のマーケットが年々縮小していく状況は明白です。本校の教育理念・方針のもと進めているあらゆるイベント・カリキュラムなど競合優位性をより適正に検討者・保護者の方々に周知し、ご理解いただけるよう、メディア、コンテンツ、タイミング、SNSやSEO対策など全方位的に検討し、あらゆる打ち手を検討しながら強化してまいります。

(8) 財務

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(8)- 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	学生納付金は帰属収入の90%以上を占める最大の財源だが、多様な学生ニーズに応えるべく教育内容の充実を図り学生数確保に努めるとともに、学科・コース構成の再構築、業界企業との連携、施設設備の充実等、財源を効率的かつ最大限に活かせるように努めている。	
(8)- 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	学校運営に関わる予算については、各校・各学科にて年度予算を編成。具体的な各費目の大枠について、あらかじめ検討・承認された予算費目に基づき、備品購入や施設設備の充実・改修などに対する相当額を各校で予算化し、学園本部会議にて最終検討のうえで概算予算を決定している。	
(8)- 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、学園法人本部の所管で監事により業務・財産状況の監査が行われており、会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議委員会で決議を受けている。また、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。	
(8)- 4 財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務諸表については、学園のホームページで公開するとともに、国の修学支援制度/給付型奨学金の要件を満たす機関としての適切な財務基盤を有し、情報公開を実施している。	

今後に向けての学校の考え

入学者数の減少リスクに伴う収益減少を想定すべき状況下であります。学科別でも収益率に差が出ています。費用対効果の高い実習費・設備投資・募集経費計画を立てたうえ、経費節減に努め、各学科で学生満足度を下げることなく、在籍数の拡大に繋がる健全な学生募集活動と学校運営を引き続き推進してまいります。

(9) 法令等の遵守

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(9)- 1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	本校では、専門学校教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。 学園では「コンプライアンス規程」を設け、弁護士および公認会計士をメンバーとするコンプライアンス委員会が設置されている。通報窓口が周知され、学園として法令違反に関する情報を的確に収集するとともに、専門家の知見を踏まえた対応をとる体制としている。また、責任者対象のハラスメント講習会を年1回実施している。	
(9)- 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学校法人全体として各種情報の保護を図っている。「個人情報保護法に関する教職員規定内規」を定め、個人、部署ごとに情報の漏えいがないよう取り組んでいる。また、講師会において非常勤講師にも注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	定期的なセミナーなどで啓蒙を続けることも大切だと思います(ヒヤリハットなどの事例の共有など)。
(9)- 3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	学生アンケートを含め自己点検・自己評価を実施し、本校の教育改善に役立てることを目的に今後も継続して実施をする。引き続き、自己評価のレベル向上に努める。	
(9)- 4 自己評価結果を公開しているか	4	本校の「自己点検・自己評価報告書」は学園ホームページで毎年度公開している。	

今後に向けての学校の考え

学園本部が設置するコンプライアンス委員会のもと、教職員と講師が法令遵守を日々意識し、ハラスメントや個人情報保護の観点やSNSに関するリテラシー、情報漏洩防止等に努めております。学生にはオリエンテーション等を通して引き続き徹底してまいります。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(10)- 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	当該年度は、名古屋市人とペットの共生サポートセンター主催、譲渡ボランティアによる「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」に会場を提供し、学生と教員がボランティアスタッフとしてサポートした。今後も、立地の利便性を生かした社会貢献・地域貢献を機会があれば前向きに検討し、学生たちが自発的にボランティア活動を行える機会を提供する。また、学園祭やクロスオーバー・サミットなど一般に公開するイベントに関しては、保護者のみならず地域の方に来校いただけるよう早めから計画し、学園が掲げる「5つのプロフェッショナル力」「5つの人間関係力」が身につく実感のあるカリキュラムとしていくと同時に、社会・地域からの評価を頂戴できるよう進める。	学生が自発的にボランティア活動を行える機会を増やし社会貢献できる取り組みを継続してほしい。
(10)- 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4		ボランティア活動は学生にとって、とても貴重な経験を積むことが出来る場だと思います。年代や立場の異なる様々な人々と関わることは社会に出た後も役立ちますので、積極的な参加を継続して頂きたい。
(10)- 3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	地域に対する公開講座や教育訓練等の受託については、社団法人日本ペットマッサージ協会や社団法人日本メディカルアロマセラピー協会検定、名古屋市の外郭団体主催「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」、ペットビジネス企業主催トリマー向けセミナー等の会場として教室や実習室を提供しているが、地域に対する公開講座等の受託は行っておらず、積極的に実施しているとは言えない状況にある。	今後、地域への公開講座等の受託を期待致します。「矢場町・栄」という立地を活かし、商業施設とのコラボレーションなどへの積極的な取り組みも必要だと感じました。

今後に向けての学校の考え

社会貢献・地域貢献活動につきましては、栄5丁目に立地する2つの校舎フロアを地域活動等に役立てていただける機会があれば積極的に検討したい、と考えております。2024年度も活動を実施してまいりましたが、今後発展させてまいります。

(11) 国際交流 (必要に応じて)

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・エビデンス・学校改善案など	
(11)- 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	2025年度は、留学生クラスである総合ビジネス学科グローバルビジネスコースを2021年度以来4年ぶりに設置した。次年度はより戦略的に留学生の受け入れを進めていく。2024年度入学した2名の留学生は全員進級している。	多様性が重視される昨今、学生の皆さんがリアルにお互いの違いを理解し、学内で国際感覚を体感できる様、戦略的受け入れは非常に大切と感じます。差別化にも効果的。 少子化が進む現状において、留学生を含めた学生確保はどの学校様も課題であるとお聞きしています。ただし、入学することだけが目的にならないよう、これからもしっかりと入学後のサポートをお願いします。 4年ぶりにグローバルビジネスコースを設置し、留学生の受け入れ体制の強化が図れている点に評価できる。留学生との交流を通じて、学生の視野が広がり、多様な考え方を学ぶことができるので今後の戦略に期待します。 留学生受け入れ戦略については他校も様々練っているため、出遅れないよう進めて頂きたいなど感じる。
(11)- 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	入学前、入学後の学生ビザ確認・更新に際しては、適切に手続きが進められるよう事務長中心に対応し、名古屋出入国在留管理局より「適正校」と選定されている。	素晴らしいことだと思います。
(11)- 3 (留学生の学修・生活指導等について) 学内に適切な体制が整備されているか	4	2024年度に2年に進級した留学生4名は、東証プライム上場企業や国内IT企業等、全員が国内への就職を果たした。 留学生については、学習意欲や国内就職意欲の高い者を受け入れるという体制とし、2025年度は8名の入学を受け入れている。職業教育機関である専門学校として留学生の受け入れに果たす役割は大きいと認識し、次年度についても意識の高い留学生を積極的に受け入れ、進級、資格取得、国内就職をめざすよう進める。	
(11)- 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4		留学生を採用するメリットや注意点などを理解できていない企業もまだまだあると思います。そこに対してセミナーのような形で発信するような仕組みがあると良いのかもしれません。

今後に向けての学校の考え

コロナ禍以降見送っておりました「総合ビジネス学科グローバルビジネスコース」を復活し、9名の留学生が入学しました。このコースは、日本での就職をめざせる「日本語検定N3レベル」を入学要件としております。今後は留学生専任担当職員を置き、さらに入学者数を増やし、進級・就職・生活全般を含む支援体制をより強化してまいります。